令和５年10月16日（月） 大阪府河川整備審議会 令和５年度　第２回 治水専門部会	参考資料３

大阪府河川整備審議会　令和５年度第１回治水専門部会　議事要旨

日　時　：令和５年７月３日（月）17:00～18:00
場　所　：西大阪治水事務所１階会議室（WEB併用）
出席者　：（委員）中桐部会長・小林委員・阪本委員・里深委員　　計４名
内　容　：

実績降雨の分析と治水対策の検討の進め方
・実績降雨の分析結果について説明。
・今後、モデル河川を選定し、将来的な外力増大を想定した流量に対する河川整備及び流域治水対策メニュー、計画規模を超える降雨に対するソフト対策等の検討を行う。

概　要　：〔以下、○委員　●事務局〕

実績降雨の分析と治水対策の検討の進め方

○降雨の継続時間について、府が管理する河川は延長や流域の大きさが異なることから、河川ごとに着目する時間スケールを検討するべきである。
●合理式でピーク流量を算定している流域の小さい河川の洪水到達時間は１時間前後が多いが、寝屋川流域では計画降雨の継続時間を24時間に設定しているなど、河川によって違いがある。今後、流域の大きさ、特性が異なる河川をモデルとして選定し、具体的な治水対策の検討を行う。
○近年、降雨強度の強い雨が観測されているのに対し、確率雨量は増大している状況とは言えない理由は。
●観測所毎に見ると強い雨が観測されているが、広範囲で同時に強い雨が降っているケースが少なく、またデータ数が増加しているため、確率雨量としては大きくなっていないと考えられる。
○確率雨量は頻度分布に基づき算出しており、２、３回大きな雨が降ったからといって、それより弱い雨が元の頻度分布と変わらない状態であれば確率雨量は変わらない。そのことと、最近強い雨が増えているか、減っているかということとは別の観点であることを認識しておく必要がある。
○気候変動の有無に関わらず、計画を超える大きな雨が降る可能性はある。河川整備には限界があるということを示し、流域治水でいかに対応するかを整理した方がよい。
●ハード対策には限界があり、それを補うため、府が進めている凌ぐ施策や逃げる施策も組み合わせて治水対策に取り組んでいきたい。
○大阪府では雨量データが揃っているため、確率雨量を用いるのではなく、過去の実績データに基づき、コスト等も踏まえて対策を考えるというのも方向性としてあるのでは。
●ハード対策については一定の目標を定めて進めるものであり、今後、目標以上に外力が増大した場合、具体的にどのように対策を組み合わせて対応していくのかお示ししたい。
○計画の雨量を大きくしたとしても、予算の制限もあり河川事業の進み方は大きく変わらない。全てのハード整備を同じように考えるのではなく、暗渠部分など作り変えることが困難な構造物などについては、将来的な降雨の増大を見越して計画するなど、切り分けて考えることが必要。
●どのような場合に将来的な外力の増大を想定して計画を立てる必要があるのかについては、今後整理していきたい。